

NEWS LETTER

エジプト・アラブ共和国
特別活動を中心とした
日本式教育モデル発展・普及プロジェクト



ニュースレター第8号

第8号では、エジプト日本学校の先生を特集します。エジプト日本学校の先生の働き方や先生方が感じるTokkatsuの効果に迫ります。

他にも、エジプト日本学校で行われている様々な取り組みを紹介しています。ぜひご覧ください。

第8号の 主な記事

エジプト日本学校
で働く先生vol.1

JICA海外協力隊
によるレポート

エジプトでは、日本の学習指導要領に定められた「特別活動」を参照し、現地の制度や習慣に沿って現地適合理化しています。そこで、本紙では、エジプトのものを「Tokkatsu」として表します。

全国で働く先生の人数

2079人

男女比



エジプト日本学校では、開校間もなくクラス数が少ない学校から、1学年で3クラスある学校まで、その規模は様々です。一校で20人から70人の先生が働いています。

エジプト日本学校の小学校の先生の内、**70%※**が女性です。校長先生も女性が多いです。

平均年齢 **32.8歳**※

新卒採用は少なく、多くの先生は他の学校での教員経験があります。



エジプト日本学校で働く先生 vol.1



2024年9月現在51校あるエジプト日本学校に勤務する先生について特集しました。日本の先生との共通点、またエジプトならではの点、エジプト日本学校の特長などをご紹介します。

※は、4ページと5ページに掲載のアンケートを参照に掲載しております

教科担任制で、**Tokkatsuの授業は2人体制**

週の平均授業数
16時間※

小学校の1日の授業数は9時間。授業数は教科の担当によっても異なります。

働いている間は、小さい子どもは、
保育園に預けたり学校に連れてくることも

研修も、子ども連れで参加することもあります。

通勤は乗り合いの車を
チャーターする人が多い

全国転勤もあります

南から北まで、転勤すると約1,300 km！
エジプトの国土は、日本の約2.7倍です。

エジプト日本学校での勤務年数

平均 **3.6年**※

エジプト日本学校を含めた、教員経験年数は、7年以上の先生が60%。※ 2

平均の出勤時間は、45分※ 首都カイロ周辺では自家用車を運転し出勤する先生も多いですが、地方では自家用車を運転し出勤するケースは少ないようです。

もう少し詳しく聞いてみました！どんなスケジュールで働いているの？



アスワン校のアラビア語のマハームド先生

6年生のアラビア語とTokkatsuを担当しています。空き時間は、授業の準備や、他の授業のサポートに入ることもあります。昼食と掃除の時間は、教室に入る担当が決まっています。メインの担当の時は教室で、サブ担当の時は廊下で子どもたちを見守ります。4年生から6年生の場合は、児童と一緒に昼食をとりますが、低学年の場合は見守りに徹します。また、授業の前後に職員会議もあります。

6:30 出発

7:00 学校到着

8:00 児童登校

学校での勤務

15:00 業務終了

15:30 帰宅

15:30～食事・授業準備など

	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日
朝の会					
1時間目					
2時間目					
3時間目	アラビア語 6年生		アラビア語 6年生		
4時間目	アラビア語 6年生	Tokkatsu	アラビア語 6年生	(Tokatsu)	
昼食・そうじ					
5時間目		アラビア語 6年生		アラビア語 6年生	アラビア語 6年生
6時間目		アラビア語 6年生		アラビア語 6年生	アラビア語 6年生
7時間目					
8時間目					
9時間目					
帰りの会					



ナーセル校の幼稚園の先生 ヘバ先生

幼稚園1年生のアラビア語と遊びを通した学びの時間を担当していますが、幼稚園のクラスは2人体制なので、算数とディスカバリーの授業は必ずサポートに入ります。それ以外の英語や美術などの時間もクラス担当の先生と交代でサポートに入ります。空き時間は、クラス担当の先生と交代で休憩をとりますが、休憩がとれない曜日もあります。水曜日には幼稚園のクラス担当の先生とミーティングがあります。

7:10 出発

7:20 学校到着

7:30 児童登校

学校での勤務

15:05 業務終了

15:30 帰宅

15:30～家事や授業準備

	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日
朝の会					
1時間目	アラビア語 の授業				遊びを通した学び
10分休憩					
2時間目	アラビア語 の授業				アラビア語 の授業
昼食・そうじ・遊びを通した学び ※木曜日は校庭での遊び					
3時間目					アラビア語 の授業
4時間目					アラビア語 の授業
帰りの会					

エジプト日本学校で働く先生へTokkatsuについてのアンケート

全国のエジプト日本学校で働く先生へ、学校でのTokkatsuの実施状況や家庭での様子などアンケートを実施しました！（回答数：145人 2024年8月実施）

Q.なぜエジプト日本学校で働こうと思いましたか？（136人有効回答より抜粋）

新しい経験を得るため

クリエイティブで決して退屈しないから

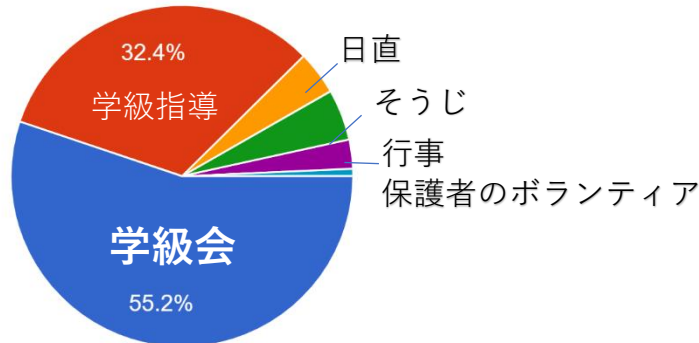
家から近いから

自分自身が挑戦したい新しいチャレンジだから

教育的な刺激と挑戦に満ちた環境で、学習と仕事の経験を積むため

この地域には私立学校がないので、これは私の地域で最高の機会の1つのため

Q.最も良いと思うTokkatsuの活動は？（145人有効回答）



学級会と回答する
先生が**55.2%**

Q.今まで実践した学級会・学級指導で反響があった議題とその理由は？（127人有効回答より抜粋）

「みんなで遊ぼう」「パーティーをしよう」といった学級会や「手を正しく洗おう」「健康的な食生活を心がけよう」などの学級指導は、各学校で実施しているようです。他にも様々な回答がありました。

テーマ	反響があった理由
クラスみんなで遊ぼう	3つの異なるゲームを選び、子ども達は、ゲームをローテーションで行いました。決めたことを実践する時間は、動きが活発で子ども達にとって楽しい時間になりました。（スエズ校・数学）
映画の日の企画を考えよう	子ども達が全員満足できる決定を下し、実施の時間は、皆がハッピーになりました。（オブール校・アラビア語）
就寝時刻を考えよう	規則正しい睡眠を維持する方法を見つけるという子ども達のアイデアが、皆の予想を超えていたからです。（ナーセル校・アラビア語）
他者を受け入れよう	他人の意見を受け入れ、最終的に正しい意見に到達することを目指ことができました。（10月ラマダン市第二学校・社会）
お互いに良いことを言い合いましょう	彼らの前向きな行動を伸ばすための、話し合いでした。（ニューカイロ校・算数）
エジプトと日本の文化交流イベント	ビデオチャットを通じてエジプトの文化と多様性を日本の子ども達に紹介したいという強い願いと、日本文化を学びたいという熱意が、子ども達を大いに興奮させました。（ボルグエルアラブ校・アラビア語）

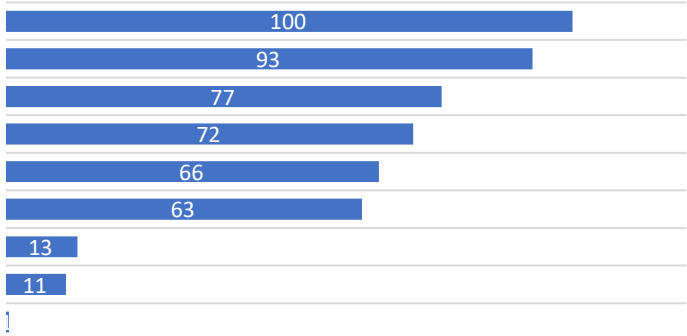
Q.開校時の6年前と比べて変化したことを教えてください（131人有効回答より抜粋）

子どもの自立や自信の向上、表現の自由、保護者、地域社会との関係など

- 子どもの全人的な発達という文化が定着し、学業成績のみに注目するのではなく、全人的（社会的、認知的、身体的）発達に注目するようになりました。（マトルーフ校・算数）
- 子どものTokkatsuへの興味と愛着、保護者の参加と児童への励まし。（ケナ校・算数）
- 子どもは自分で意思決定を行う能力があり、発見し、研究する能力を持っています。（ケスナ校・社会科）
- 自分を表現する自信。恐れることなく流暢に話したり聞いたりすること。児童に対する継続的な思いやりのある動機付けと指導。幼い頃からすべての活動において生徒の自立を受け入れようとする親の努力。（ナーセル校・アラビア語）
- 子どもは、自分の意見を表現し、他の意見に基づいて自分の意見を構築し、異なる意見を尊重する能力を身につけました。保護者は子どもたちに協力し、助け、サポートすることに慣れ、子どもたちのレベル向上のために学校に積極的に参加するようになりました。（スナイエル校・アラビア語）

Q.エジプト日本学校と他の学校の違いを教えてください（141人有効回答/複数回答）

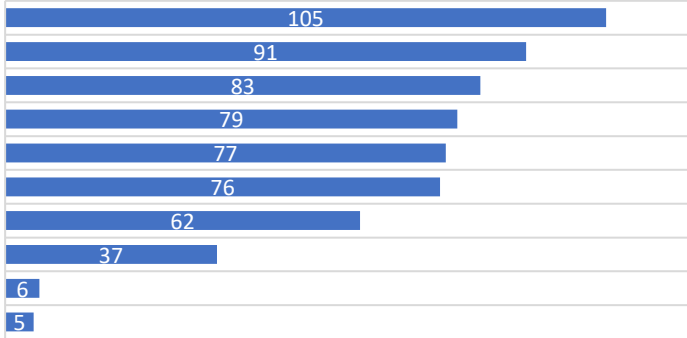
子どもたちのさまざまな能力を育む環境
子どもたちの授業への参加意欲の向上
子ども、保護者、教師の関係
衛生環境の改善
しつけなど
健康への配慮
その他
特になし
大きな違いはない



単位：人

Q.Tokkatsuの実践は、子どもへどのような効果がありますか？（143人有効回答/複数回答）

問題解決能力
自己表現力や自信の向上
他者との協力や共感の高まり
規律が向上し、相互理解が深める
自分自身の新しい発見
子どもの行動に変化
幸福感、満足感の高まり
学業への好影響
特になし
その他



単位：人

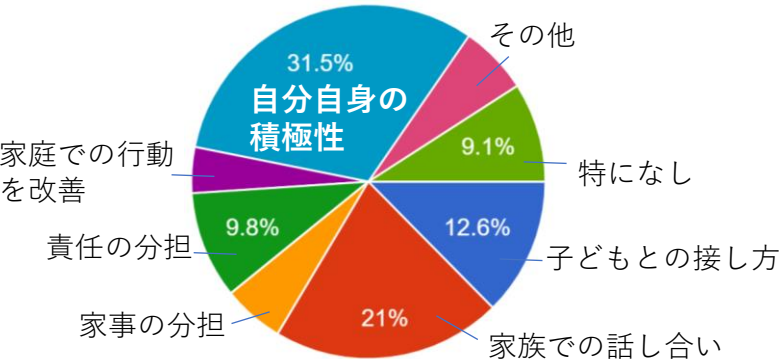
Q.家庭でTokkatsuを実践していますか？（139人有効回答/回答抜粋）



97%の先生が様々なTokkatsuを家庭で実践しています。

- ・家庭内で議論の場を設け、意見を独占しない。（ラダセイヤ校・社会科）
- ・子どもたちと一緒に掃除。（モンタザ校・数学）
- ・家事の分担、よく話し合う。（ラダセイヤ校・数学）
- ・妻が家を掃除するのを手伝い、自分の食事の準備をする。イスマエリヤ校・アラビア語）

Q.Tokkatsuを始める前後で、家庭生活で変化したことはありますか？（143人有効回答/複数回答）



多くの先生が、自分自身の積極性や、家族での話し合いなどポジティブな変化を感じています。

アンケートからは、Tokkatsuを深く理解し、実践にやりがいを感じている先生の声が大きく感じられました。次号では、さらに全国の先生をインタビューしてきた内容をお伝えする予定です。ニュースレター第5号では、パイオニア校の先生へインタビューをしています。[こちら](#)もぜひご参照ください！

エジプト日本学校の校外活動



EGYPTIAN JAPANESE SCHOOLS
المدارس المصرية اليابانية

合同サマーキャンプ

夏休み期間の7月に、エジプト日本学校が開校して初めて、全国各地のエジプト日本学校12校から、先生10名、児童128名参加のサマーキャンプが開催されました。サマーキャンプでは、長い夏休み期間に子どもたちが一緒に協力し活動し、お互いの経験を分かち合うことができることを目標の一つとしました。

4泊5日間で実施されたキャンプは、3人1部屋で子ども達が宿泊し、多くの場所に行き、子ども達は先生や他の学校の子もたちと協力しお互いを理解できるよう努め、Tokkatsuでの学びがすべての行動に反映されていました。

サマーキャンプに参加した子どもからは、「キャンプはとても楽しかった。ワディ・アル・ヒタンなどの古代遺跡を見て、本で見たことを理解した。」「チュニス村で自分たちの手で粘土の模型を作り、粘土の質感に触れたり、名前を書いたりしたときは嬉しかった。」「学校以外の新しい友達にも出会い、いろいろなことに挑戦した。」など存分に楽しんだようです。

企画したエジプト国教育技術教育省事業管理部(PMU)、Tokkatsu研修・普及担当のハッサンさんからは、「自分の学校だけでなく、すべての学校のレベルでTokkatsuの影響の大きさを見ることを目的に企画しましたが、各校共に児童に与える影響が非常に大きいことがとても嬉しかった。参加した児童の人数が多く、興味関心も異なるにもかかわらず、自分たちの違いを受け入れ、時にはグループの意見に譲歩する柔軟さを持っていた。これは、Tokkatsuの影響が、学校レベルで美しい形ではっきりと目に見える形で現れていることを証明するもので、前向きなエネルギーをもって、これからも続けていこうという意気込みを強くした。今年度は、初めての取り組みでしたが来年以降の企画も楽しみにしている。」と感想がありました。



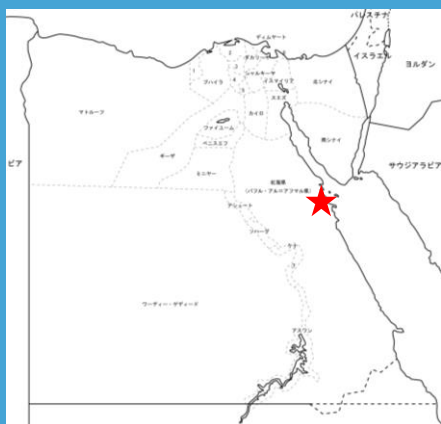
スエズ校:報道委員会の校外見学

スエズ校には、音楽委員会、スポーツ委員会、学校美化・環境保全委員会、報道委員会、企画委員会があります。最初、児童は報道委員会よりも、他の委員会への参加を望んでいましたが先生が役割などを説明し、報道委員会には11名の児童が集まりました。報道委員会の校外活動は、3月にスエズ大学メディア学部を訪れました。そこで大学教授や大学生と話し、ラジオやテレビのスタジオを見学しました。これは、ジャーナリズムやメディアに対する彼らの見方に大きな変化をもたらしました。また、大学生に日本文化を広めるため、着物を着てもらったり、児童が簡単な日本語を教えたりしました。8月には、Al-Jumhuriya新聞スエズ支局を訪れ、ニュースの作成方法や発行方法について学び、制作者と話をし、オンライン・ジャーナリズムの存在や、ジャーナリズムの発展段階について学びました。



2024年9月現在、エジプト全土に51校開校しているエジプト日本学校。各校の紹介と合わせて、学校ごとの取り組みなどを紹介します。

ハルカダ校



ハルカダ校は、首都カイロから440kmの距離にある紅海沿岸の地方都市に位置します。2018年に開校し、幼稚園と小学校合わせて109人の子ども達が学んでいます。開校当時から、保護者や地域との連携を図ってきた学校です。本年度は、独自に好事例集をまとめるなど、校長先生、副校長先生が主導となり、教員、保護者、地域の連携をさらに深めました。



保護者と学校での朝食会の様子

2023年-2024年度のハルカダ校の取り組み

2023年-2024年度の目標

ハルカダ校では、2022年度末に2023年度の目標を「保護者との連携強化」と掲げました。

2023年-2024年度の取り組み

①保護者との月一会議

目標達成のために、まず企画したのが、月一の保護者との会議です。決まった議題は設けずに、自由に話し合いをする時間を設けました。最初は保護者の参加率は、それほど高くなかったですが、徐々に参加者も増え、2023年度の終了時には毎月多くの保護者が参加するようになりました。

②サポートシート

今年度行ったチャレンジとしては、子どものサポートシートを作成しました。学校で子どもがつまづいた箇所を参考に先生が、課題を作成し子どもに回答してもらいます。家庭では、同じように保護者が学校で行った内容を参考に問題を作成し、家庭学習を行います。終わったら先生に提出します。当初は、一部の子のサポートとして行っていましたが、現在は全員を対象にし、子どものニーズに

合ったサポートシートを作成し、教員、子ども、保護者との関係構築に役立ちました。中には家庭に提出しない子どもがいたり保護者が回答したりと課題もありましたが、次年度でも継続していく予定です。

④保護者との学級会

子ども達の提案で、自分の将来について保護者に耳を傾けてもらい、勉強以外の興味関心や、勉強とその他の活動両方にやる気があるということを理解してもらうために、「私たちの将来を決めるために一緒に合意しましょう」というテーマで、保護者との学級会を行いました。多くの保護者が参加し、学級会の最後には、子どもと保護者が合意し、勉強とその他の活動とのバランスをとるためのスケジュールを立てる家庭もありました。

③地域との連携

近隣の大学生を招いて、大学生に学級会を体験してもらったり、公立の小学校の子どもたちと掃除を行ったりしました。また、委員会活動では、報道委員会の子どもたちが、教育委員会にインタビューに行く機会もありました。

(ハルカダ校・副校長先生)



保護者が先生と教材づくりをする様子



地域の学校の生徒が学級会を体験する様子



6年生の校外活動
(教育委員会訪問)



JICA海外協力隊による 学校巡回ワークショップのレポート

エジプト日本学校所属の環境教育隊員と、看護師隊員による学校環境の安全に関する取り組み

エジプトで活動するJICA海外協力隊が、所属先の垣根を越えて巡回型で実施した取り組みをご紹介します。



この取り組みのきっかけとなったのは、エジプト日本学校で環境教育隊員として活動しているJICA海外協力隊より学校の子どもたちのハサミの扱いが危険だという話を聞いたことでした。そこで、何をすれば子どもたちに危機管理を持ってもらえるのか、そして先生方にもその視点を持って子どもたちをみてもらえるのかを考え、学校生活の中での危険を見つけるワークショップを考案しました。

ワークショップの内容はイラストKYT(危険予知トレーニング)、寸劇、簡単な応急処置のレクチャー(怪我をした時に水で洗う、鼻血のとめ方)の3部構成にしました。

イラストKYTでは教室や校庭で子どもたちが教室内やハサミを持って遊ぶ、ブランコの周りで遊ぶなどのイラストが描かれた絵を子どもたちが見て(右写真)、危険なポイントを見つけて、クラスや学年の子どもたちに共有するようにしました。



寸劇では特にその学校で活動しているJICA海外協力隊が危険だと思うことを取り上げ、JICA海外協力隊と現地の先生と寸劇をしました。寸劇を子どもたちに見てもらい「これはいいこと？悪いこと？なぜ悪いと思う？」と聞いて、子どもたちにとって身近な場面を寸劇にすることで自分たちの行動を客観視できるようにしました。特に寸劇は子どもたちの印象に残ったようでした。寸劇はハサミの扱い、子どもたちが登下校で使用する多くのキャスター付きカバンを持って走る、廊下を走る等、一度のワークショップで2～3種類の寸劇をしました。

応急処置では怪我をしたら、傷は洗う？洗わない？鼻血が出たら、上を向く？下を向く？とクイズのようにして子どもたちに聞きました。鼻血のとめ方を子どもたちと練習しました。

ワークショップ終了後は学校にいなかった子どもたちやワークショップを風化させないために、イラストKYTの掲示物を作り、各学校のJICA海外協力隊に送りました。最終的には7校28回ワークショップを実施しました。

このワークショップの内容は学校、学年でそれぞれ違います。

毎回学校に配属されているJICA海外協力隊に学校内で危険だと思っていることを聞き、学校の先生方にワークショップへの要望を確認していました。

イラストKYTをする時は学年に合わせて子どもたちに話し合ってもらったり、グループワークにしたり、個人で考えてもらったり、学校、学年の個性に合わせて対応してきました。

ワークショップによる効果として、ある学校ではキャスター付きカバンを持って走る子どもに同級生が、「走ったらだめだよ。今日のワークショップで教えてもらったでしょ。」と注意する場面があったと聞きました。またある学校では普段、子どもたちの前で指導することがない保健室の先生が積極的にワークショップに参加し、ワークショップで手洗いや歯磨きについても話したいと意欲的な姿がありました。

僅かではありますが、このワークショップを通して子どもたちだけでなく先生たちの意識の変化につながったのではないかと思います。

第8号ニュースレターでは、エジプト日本学校の先生やそこでの実践をご紹介します。次号でも、エジプト日本学校の先生へのインタビューなど、エジプトでのTokkatsuの様子をお届けしていきます。

問い合わせ先

JICA技術協力プロジェクトチーム
holistic_edu@padeco.co.jp